

平成25年度 山口県立下関中央工業高等学校 学校評価書 校長(上田 晃久)

1 学校教育目標	
教育目標……①明朗健全な心身の発達を図る。②勤労を愛好し、個性豊かな技術者としての資質の伸長を図る。③誠実を旨とし、旺盛な責任感と協調の心情を培う。 中・長期目標……①「質実剛健」の校訓のもと地域との連携を図り、地域から信頼され、共に感動できる学校づくりの推進 ② 生徒の個性を育て、進路希望に応じたキャリア教育の推進 ③ 工業技術の基礎基本を習得させ、ものづくりを支える専門的職業人の育成	

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
・本校を卒業すると、ほとんどの生徒が社会人となる現状において、知・徳・体において生徒に着実に身につけさせるべき点を教職員が共通認識し、その定着に向けた指導の方向性を一致させることで目標、実行、点検、改善のPDCAサイクルの効率と効果の向上を目指し、生徒・教職員が共に感動する場面を多く作り出す必要がある。 ・学校関係者評価者委員会において指摘を受けた点について積極的に改善を図り、学校の活性化に繋げていく。 ・学校運営においても分掌組織や教育課程等の改善に取り組む必要がある。	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
次世代で活躍し、信頼される人材の育成 ～凡事徹底～ ① 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得 ② 社会人として必要な基本的な生活習慣の確立 ③ 教職員の協働体制による組織力の向上	《学校チャレンジ目標》 「生徒自らが自らを高めるPDCAによるチャレンジ目標の設定と実行」

4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価
教務課	学習指導	国語・数学・英語の基礎テストを年間計画に従って実施する	得点率8割以上の生徒が 4: 60%以上 3: 50%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	3	各科目第4回までの結果を平均した、得点率8割以上の生徒の割合は54.8%であり、今後もより一層の指導を必要とする。	・生徒への自己目標として、80%達成と具体的にさせて実施をさせること、そして、実施後に振り返りの学習をさせると効果が上がるのではないかと。
	基礎学力の向上					
	図書関係	「図書だより」を発行し、図書室の利用度を高める	図書室の一ヶ月の延べ利用者が 4: 200人以上 3: 100人以上 2: 50人以上 1: 50人未満	3	12月末までの各月における図書室の一ヶ月の延べ利用者は平均100人強である。今後も「図書だより」発行などを通じて利用の促進を行う。	・図書室の利用の動機づけや習慣づけを工夫して、読書習慣を身に付けさせてほしい。 ・授業の中で、教員から本の紹介をすることもあってよいのでは。
	読書習慣の定着					
	環境整備	学期に数回、美化委員による美化活動の日を設ける	美化活動の実施回数が年間 4: 12回以上実施 3: 10回以上実施 2: 8回以上実施 1: 6回以下	4	12月末までに、12回実施。今後も予定を通りに実施できそうである。ジュースの紙パックの散乱等の問題については今後も継続して考えたい。	・継続して取り組んでほしい。
	学校内外の美化					
生徒課	生徒指導	「挨拶の励行」、「皆勤の奨励」、「服装や身なりの厳正」等、真摯な生活態度や基本的な生活習慣の育成を図る。規範意識の高揚に努める	定期的に行う頭髪服装検査の合格者が 4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 60%以上	4	合格者は、一学期89.8%、二学期86.7%、1月91.8%、累計88.4%で、平成24年度の91.7%と比較すると減少してしまった。今年度は9月の就職試験前に靴下や下着の色・柄など、特別厳しい点検をしたため3年生の合格が36%(他月の平均合格が85.4%)となったためと思われる。但し、年間を通して3年生の数値が低い。頭髪服装(外見)から規範意識(内面)が向上し社会へ送り出せる様、継続して指導したい。	・良い伝統は続けてほしい。 ・厳しい指導も必要である。
	保健体育	体育授業中に走・跳・投トレーニングを体づくり運動として取り入れて生徒の体力の向上を図り、新体力テストの各種目数値が県平均を上回るように支援する。	前年度よりも県平均を上回った種目数が ()内は女子 4: 3種目以上(2種目以上) 3: 2種目以上(1種目) 2: 2種目以上(1種目) 1: 2種目以上(1種目) 1: 2種目以上(1種目) 1: 2種目以上(1種目)	4	◇2年男子…6種目(上体起・体前屈・反復・持久走・SR・HB投) ◇ " 女子…2種目(上体起・体前屈) ◇3年男子…6種目(握力・上体起・体前屈・持久走・SR・HB投) ◇ " 女子…5種目(握力・上体起・持久走・SR・HB投) 男子では、握力・持久走などの基礎体力は上回っているが、50m走・立ち幅跳びなどスピード・瞬発力系の低迷が目立つ。女子では、全体的に低迷している中、3年女子の健闘が目立つ。	・体育大会の盛り上がりが続くように取り組んでほしい。
	体力と気力の充実					
	教育相談	生徒の状況を把握するため、係会を定期的に実施し、情報交換や情報共有を図る。「教育相談だより」を発行し、生徒へSC来校日を連絡してSCの利用を活性化させる。	4: 係会15回以上、便り8回以上 3: 係会12回以上、便り6回以上 2: 係会8回以上、便り4回以上 1: 係会8回未満、便り4回未満	3	SCの来校にあわせて係会を実施し、係内での情報共有を行うと共に、2学期は学年毎の情報交換会を実施した。教育相談だよりを毎月発行し、SCの来校予定や相談メールの受付など生徒・保護者への情報提供を行っている。SCの利用は徐々に増加している。	・早期発見が何よりも肝要である。生徒の変化を見逃さないよう、保護者と協力をし、外部機関との連携・協力を一層進めてほしい。
	教育相談活動の充実					
進路指導課	進路実現	3年間のキャリア教育プログラムを通して、全ての生徒の希望する進路が実現するよう支援する。	卒業時における進路未決定者が 4: なし 3: 5名以内 2: 10名未満 1: 10名以上	4	・5・6月に求人開拓のための企業320社を訪問した。採用人数を減少させる企業が多く、依然厳しい就職活動が予想されたが、求人数は昨年同水準であった。応募前職場見学にはのべ60社訪問し、全教員で生徒引率をして、生徒のマッチングへの指導も円滑にできた。一次試験の合格率は83%であった。 ・キャリア教育では、2年次のインターンシップに向けて、社会観・勤労観を育てる指導を必要とする必要がある。	・早い時期からの啓発が大切。働く場所や職業を具体的に考えさせることが必要なのではないかと。 ・安全教育や事前研修の充実をお願いしたい。
	夢を実現するためのキャリア教育を充実させ、生徒の進路を支援する					
	PTA活動	PTA総会、地区懇談会、校内諸行事への参加を呼びかけ、学校と保護者との連携を深める。	PTA総会における出席率が 4: 40%以上 3: 30%以上 2: 20%以上 1: 20%未満	3	・PTA総会の出席率は30%であり、出席率を向上させる取り組みを続ける必要がある。地区懇談会では、3会場で30名の参加があり、保護者との連携を深めるためにも、出席率を向上させる取り組みを検討する必要がある。 ・PTA企業見学会、全国高等学校PTA連合大会山口大会等の、諸活動に役員をはじめ多くの保護者の方々に参加していただき、就職先企業の業務内容、保護者間の情報交換を通じて、保護者のスキルアップが図れた。	・参加者が多くなるように、一層取組を進めてほしい。
工業科	ものづくり教育の充実	ロボット競技やものづくりコンテストに参加し、技術や技能を高めるとともに、ものづくりに関する意欲や関心をもたせる。	ロボット競技やものづくりコンテストで 4: 優勝が1、入賞が2以上 3: 入賞が3以上 2: 入賞が2以上 1: 入賞が2未満	3	本年度は、土木科の測量3部門での入賞のみであった。しかしながら、他の科・コースとも入賞には至らなかったが、それに迫る成績を上げている。県全体に競技レベルが上がってきており、学校間の競争も激しいが、生徒の興味・関心を高め、指導を充実し来年度につなげたい。	・成果が上がるよう、一層の充実をお願いしたい。
	専門的職業人の育成	資格取得のための支援を行い、取得によって工業技術や職業人としての意欲や関心を高める。	ジュニアマイスターのポイント合計で 4: 2100ポイント 3: 1900ポイント 2: 1700ポイント 1: 1700ポイント未満	1	1月末時点でのポイント合計は、延べ人数546人、1421ポイントである。評価基準のポイントは学年定員が160名のときに掲げられたものなので、学年定員が140名の現在では目標のポイントが高いとも言えるが、昨年度に比べて、ポイントの高い資格の取得者が減少している。このことを反省点とし来年度に向けての課題としたい。	・資格の有利性、必要性などを早い段階から伝えていく必要がある。 ・部活動も大切であるが、在学中に資格取得を目指して学ぶ意欲を高めていくことも大切なことである。資格取得を一層推し進めてほしい。